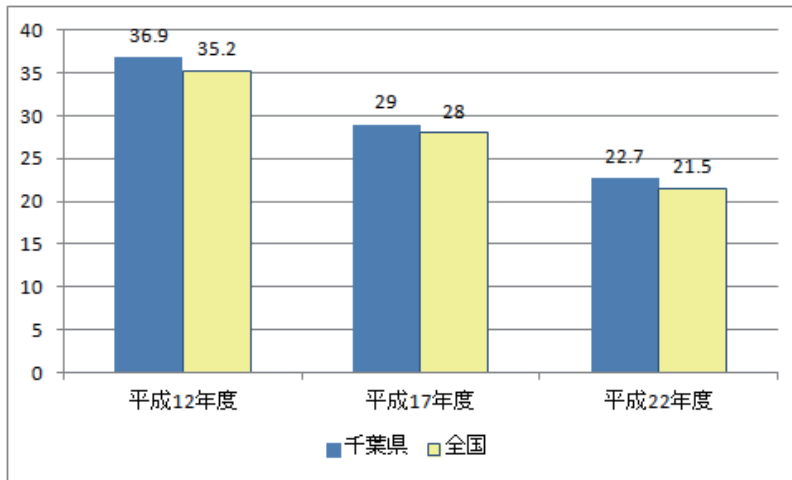


V 歯・口腔保健

子どものむし歯

乳歯、永久歯ともに、むし歯を有する子どもの割合は減少していますが、特に乳歯においては、3歳児でのむし歯がある児の出現率が全国に比べ高い状況です。

3歳児歯科健康診査 むし歯保有者率(%)の状況



資料：厚生労働省 歯科健康診査

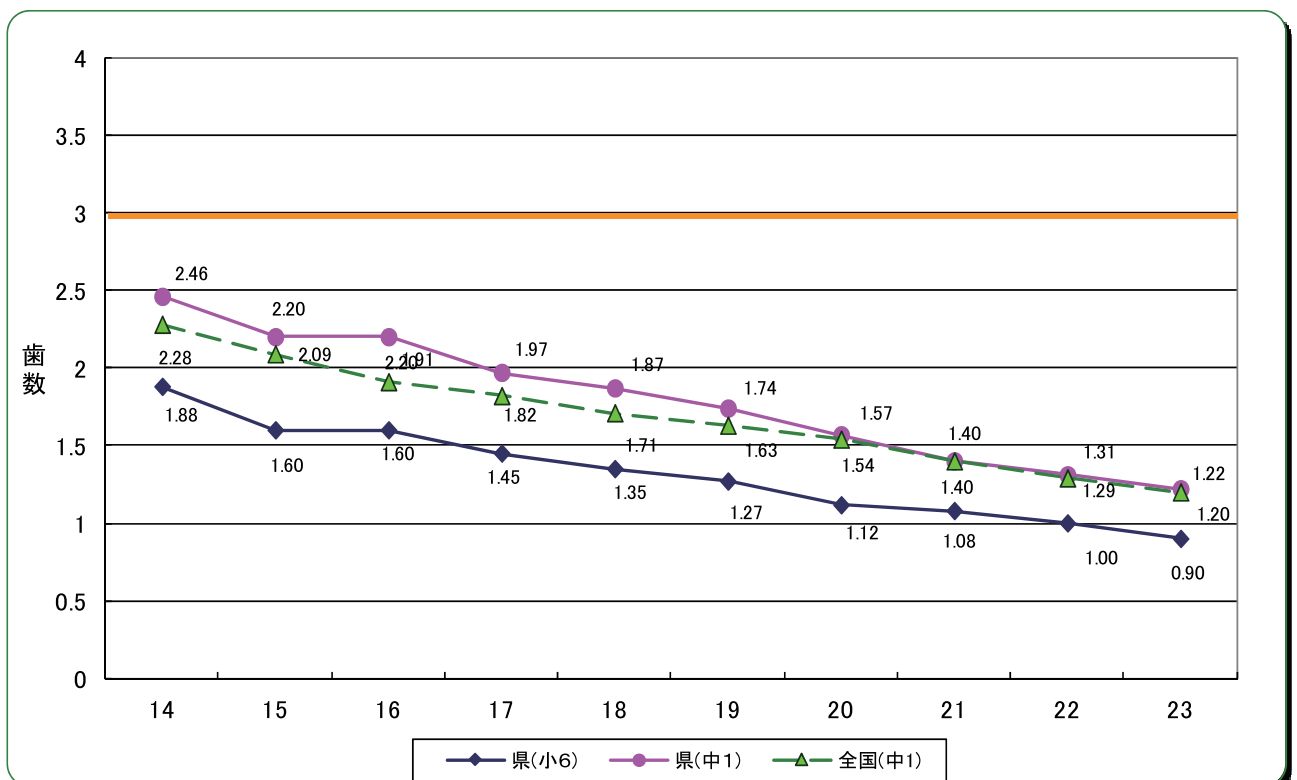
(3歳児健康診査)に係る実施状況(結果)

永久歯の状況 (12歳のむし歯)

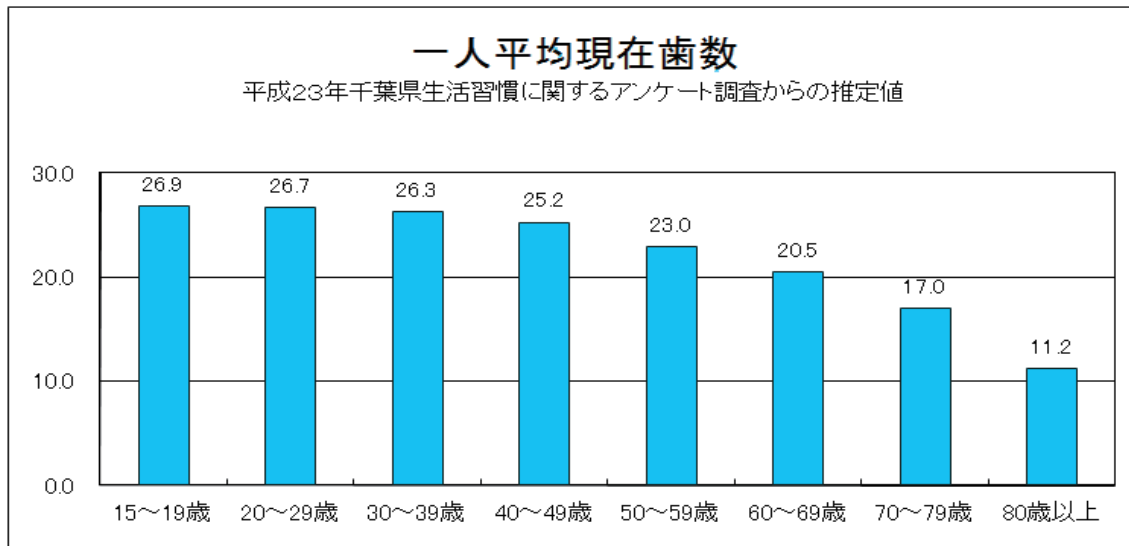
DMF指数の年次推移

$$\text{DMF歯数} = \frac{D+M+F}{\text{被検者数}}$$

D: 永久歯の未処置歯
 M: 永久歯の喪失歯
 F: 永久歯の処置歯



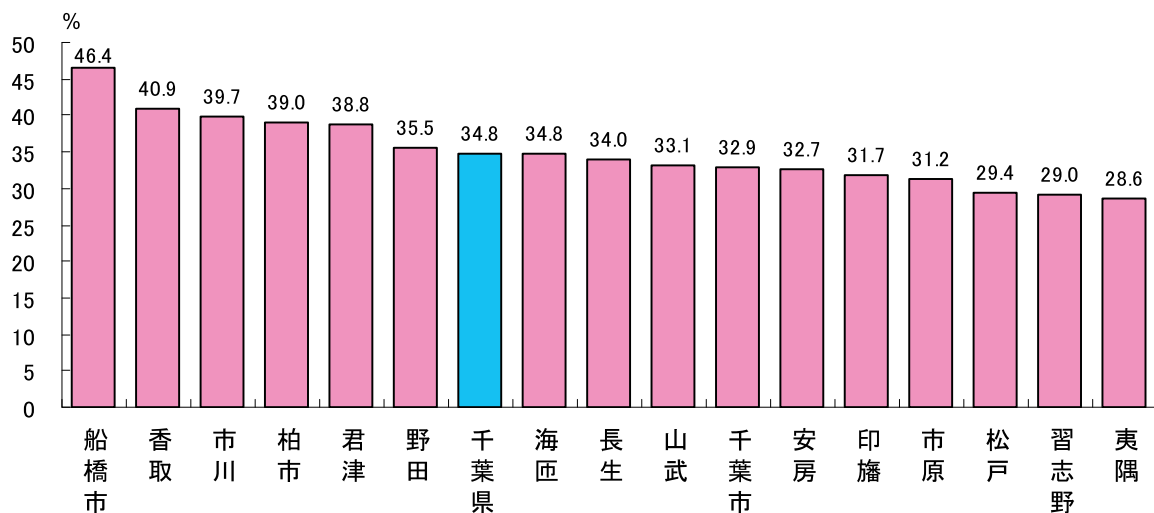
出典：平成23年度 千葉県児童生徒定期健康診断結果



VI 特定健診・特定保健指導

特定健診受診率

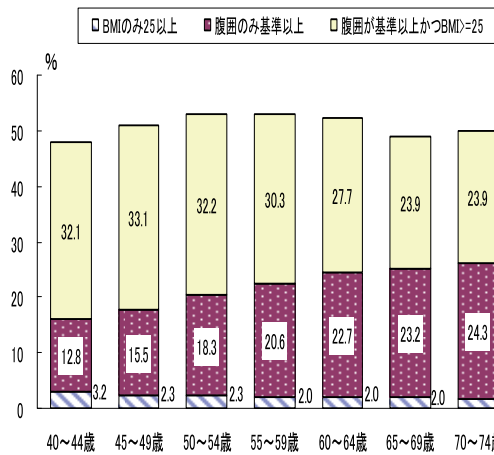
保健所圏域別受診率では、平成21年度では松戸29.0%から船橋46.3%の分布に、平成22年度でも夷隅28.6%から船橋の46.4%の分布と、受診率の地域格差は大きい状況です。



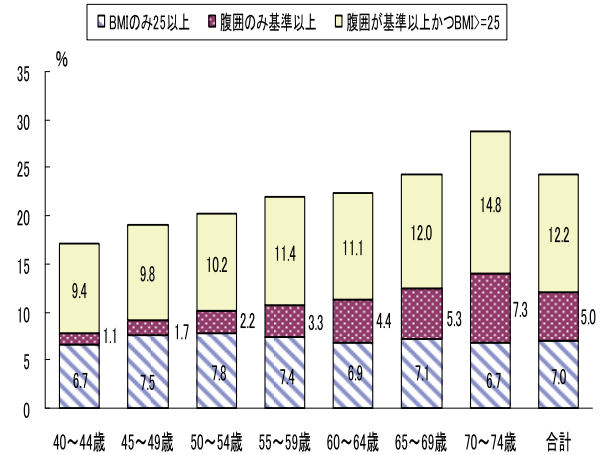
保健所圏域別の受診率（平成22年度市町村国保特定健診・特定保健指導データ集計結果）

特定健診結果（平成22年度 特定健診・特定保健指導に係るデータ集計結果（速報）より）

肥満、高血圧、脂質異常、糖尿病の予備群・該当者のいずれも男女差や年齢差、地域格差がみられます。



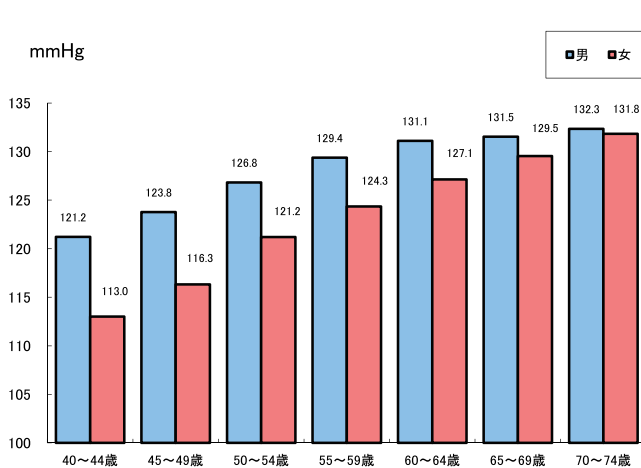
肥満の状況 (男)



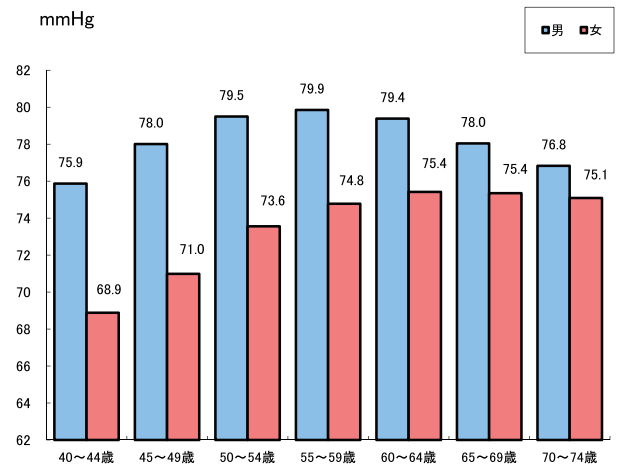
肥満の状況 (女)

収縮期血圧の平均は、男性の全国平均（40歳～89歳）が138mmHgに比べ、千葉県は40歳以上平均値131mmHgですが、女性は全国平均（40歳～89歳）が133mmHgに比べ千葉県は128mmHgと男女共に全国平均を下回っています。

男女とも加齢に伴い収縮期血圧値は上昇していますが、40～44歳では男女の収縮期血圧は8.2mmHgの差があったのに対し、70～74歳では男女差は0.5mmHgと上昇の度合いに男女差がみられています。（全国値は平成22年国民健康・栄養調査から、千葉県値は平成22年特定健診結果による）



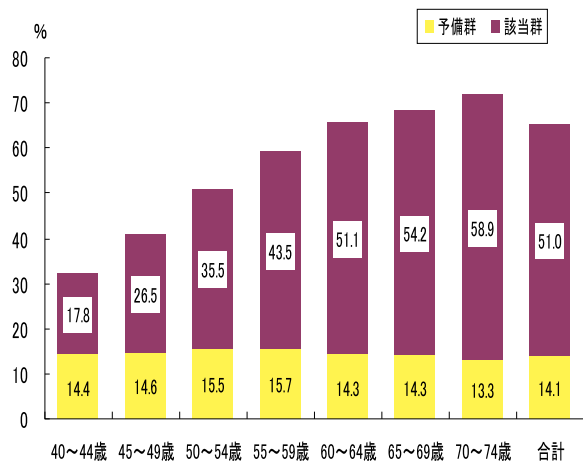
収縮期血圧平均



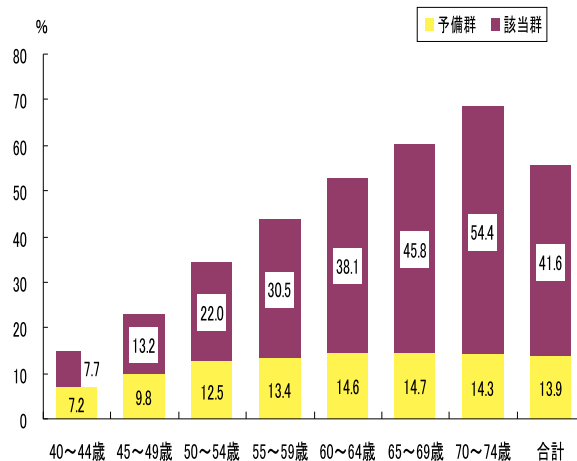
拡張期血圧平均

高血圧有病者の割合は男女とも加齢に伴い増加しています。また、男性に比べて女性の方が加齢に伴う有病率の差は大きい状況にあります。

高血圧予備群の割合は男性ではほぼ横ばいですが、女性では60～64歳まで増加しその後はほぼ横ばいです。

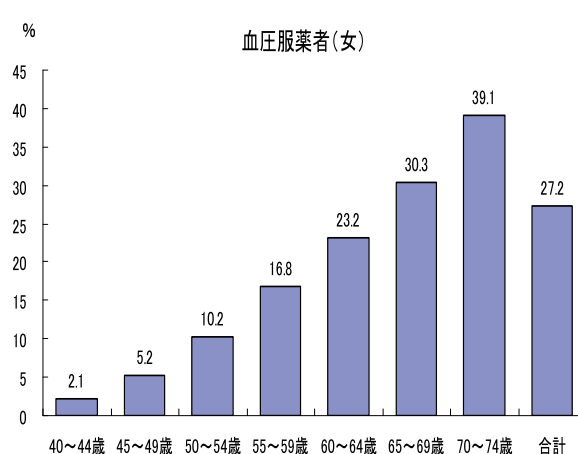
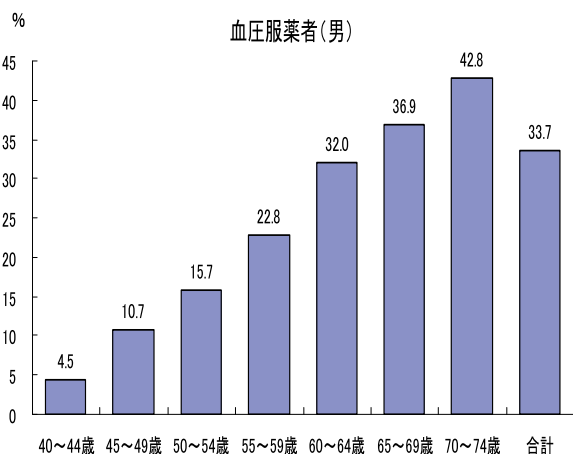


高血圧症有病者・予備群該当率(男)

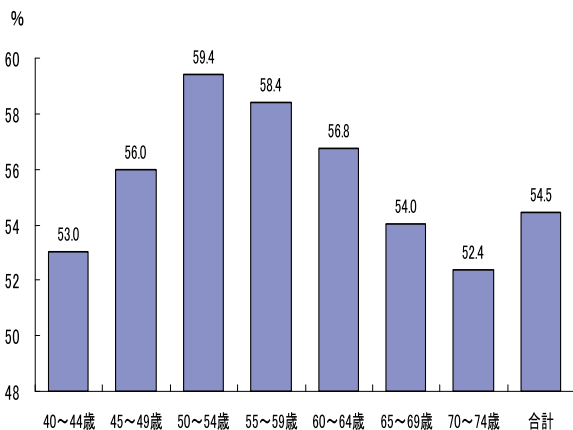


高血圧有病者・予備群該当率(女)

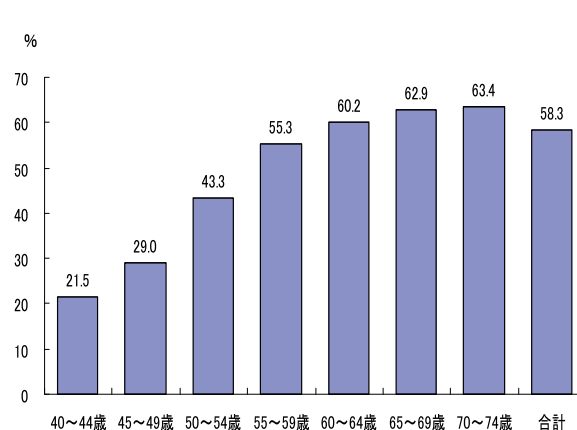
降圧剤の服用者は、平成22年度の市町村国保特定健診結果によると男性が33.7%、女性が27.2%であり、加齢とともにこの割合が増加し、70~74歳では男性42.8%、女性39.1%に上っています。



脂質異常症は虚血性心疾患の危険因子です。40歳以上の男性は、本県の状況を見るとすべての年代で異常ありが5割を超えており、50~54歳で最も高くその後は徐々に低下しています。女性は40~44歳では21.5%でしたが、年齢階級が上がるにつれて割合が高くなっています。



脂質異常症有病者該当率(男)



脂質異常症有病者該当率(女)